

Summer Program in Thailand

工学研究科

土木工学専攻 1年（派遣時）

皆川 尚輝

今回のサマープログラムでは、充実した2週間を過ごすことができました。泰日工業大学の学生や日本の他大学の学生との交流で視野を広げることができた良い経験でした。私は英語があまり得意ではなく、不安に思っていました。ホームステイ先の学生は日本語がとても上手だったため、ほとんど日本語と簡単な英語でコミュニケーションをとることができました。積極的にタイの文化について質



問をしたり、逆に日本の文化を伝えたりしました。その中で感じたことは、日本について上手に伝えることができなかつたということです。もっと日本という国について改めて知ることが大切であり、歴史や文化を見つめ直してみようと思いました。

観光では、寺院巡りやニューハーフショー、タイ式マッサージ、水上マーケットなどを回りました。タイの料理は辛いものが多かったのですが、カレーや炒飯はとても美味しく、さらに海産物は新鮮でサイズの大きいものがたくさんあったのが印象に残っています。交通の乗り物もたくさんあり、バスやタクシー、電車、像、トゥクトゥクという乗り物にも乗りました。

日本は本当に恵まれていることを感じることもできたし、海外を経験することで得ることがたくさんあると思います。ぜひ、学生のうちに経験してみたいはかがですか？

工学部 都市マネジメント学科 4年（派遣時）

平田 高司

「泰日工業大学サマープログラムに参加して」

今回のサマープログラムは、昨年の国際セミナーに続き二度目のタイへの訪問で、昨年の5日間に比べ、今回は2週間という長い期間タイで過ごすことが出来ました。長く滞在することで、食べ物や気候、文化に慣れることができ、多くの現地学生と仲良くなることができました。タイの学生と交流して一番驚いたのが、みな向上心が高く自分の将来の夢をはっきりと話せることでした。「自分はこれを勉強して、この会社でこういうことをしたい！」と目を輝かせながら話す学生の姿は、自分にとってとてもよい刺激になりました。また、日本からも16大学のべ38名の学生が参加し、ともにプログラムを進めていく中で多くの友人を作ることができました。日本に帰ってからも連絡をとりあっています。

私にはタイから帰国したあとにやりたいことがあります。まず1つは日本についてよく知ることです。海外では日本について聞かれることがよくありますが、私自身日本の歴史や風土、文化について意外と知らないということに気づきました。2つ目は、このプログラムを学内報告会やオープンキャンパスなどを通して広報活動をし、より多くの学生に国際交流に関心をもってもらえるようにすることです。

来年度からは私は社会人になりますが、残りの学生生活ではあらゆるものに興味・関心の幅を広げ有意義なものにしていきたいと考えています。